

星野焼陶芸家三人展

◇ 期 間

4月29日(土) ~ 8月27日(日)



◇ 会 場

星野焼展示館

(八女市星野村 11816-5)

◇ 入館料

一 般 200円(160円)

高 校 生 100円(80円)



【主 催】 一般財団法人星のふるさと

【後 援】 八 女 市

【問合せ】 星野焼展示館 (0943-52-3077)

「星野焼陶芸家三人展」の開催にあたって

江戸時代に久留米藩の御用釜として隆盛した星野焼。八女茶の産地という土地柄、茶壺、茶器などの名品が数多く産み出されました。明治中期には一旦途絶えましたが、昭和44年に山本源太氏により再興され、以降丸田修一氏、山本拓道氏が開窯。現在では八女市星野村を代表する美術工芸品として高く評価されています。

今回は星野焼展示館「特別企画展」として、星野焼陶芸家三窯元の作品を特別展示いたしております。是非この機会に御鑑賞ください。

源太窯 山本源太 プロフィール

- 
- ・1942年 鳥取県の山村に生まれる。
 - ・15歳の頃北へ憧れ、山陰、北陸、日本海沿岸を放浪
 - ・20歳の春陶工をめざし、伊勢の「神楽の窯」で基礎を学んだ後、陶郷小石原へ。
 - ・1968年の秋 26歳のときに星野に「源太窯」を開き古陶星野焼を再興する。
 - ・2008年 福岡県文化賞（創造部門）受賞
（著書） エッセイ集「土泥棒」 詩集「蛇莓」

1968年星野村にたどりつき、80年間途絶えていた「星野焼」を再興。伝統の夕日色、抒情的な白色の碗皿が愛されている。天体をモチーフにした「惑星を焼く男」としても紹介され、小惑星に「GENTA8824」と命名されている。

十竈窯 丸田修一 プロフィール

- 
- ・1951年 佐賀県武雄氏市に生まれる。
 - ・1970年 福岡県展朝日新聞社賞受賞
 - ・1975年 24歳のとき、星野村に「十竈窯」を開く。
 - ・1983年 西日本陶芸展入選以後10回入選
 - ・1985年 日本伝統工芸展櫛目変窯壺初入選
 - ・1997年 日本伝統工芸展入選
一水会櫛目窯変壺佳作賞受賞
 - ・2005年 日本民芸公募店茶壺入選

17歳のとき、池の山キャンプ場を訪れ、豊かな自然に感動する。修行時代、元村長橋爪喜三郎氏との出会い、師匠や村民の協力を得て、24歳のとき星野村に登窯を築き独立する。櫛目や桜をモチーフにした花紋象嵌を特徴として、夕日焼や紫蘇手を研究している。

錠光窯 山本拓道 プロフィール

- 
- ・1950年 八女市星野村に生まれる。
 - ・1977年 山本源太氏に師事
 - ・1989年（平成元年） 八女市星野村に開窯
父の故山本達雄氏が守り続け、星野村の平和の塔で燃え続ける広島原爆の火を火種として開窯

山本源太氏のもとで修行した後、平成元年にうきは市との境の耳納高原で開窯。松、杉、柿、栗、梨、桃、椿、お茶の木、ススキ、稻ワラなどの地元の植物を灰にして、作った釉薬が生み出す、色のバリエーションが魅力。